

BIS グローバル金融システム委員会報告書 「BIS 国際銀行統計の改善」

要旨（日本銀行仮訳）

金融危機が発生するたびに、利用可能な情報の限界が明らかとなり、新たなデータに対するニーズが生まれる。実際、過去に発生した危機を契機として、グローバル金融システム委員会（CGFS）傘下の BIS 関連統計など、多くの金融統計の改善が行われてきた。例えば、BIS 国際銀行統計（以下 IBS）は、漸増する報告国間での金融取引をモニターする目的で 1960 年代から作成されているが、1970 年代から 1980 年代初の発展途上国における混乱を受けて、主要な改訂が行われた。また、アジア危機の後では、同統計のより一層の改良や、外貨準備に関する情報公開の拡大が行われた。いずれの機会においても、BIS 関連統計の監督を担う CGFS は、新しいデータニーズに対する有用性の評価と、追加的な報告負担のコスト・ベネフィット面に関する助言の両面において、欠くべからざる役割を果たしてきた。

CGFS は、最近の危機の経験を踏まえ、2010 年初にワーナー・ハーマン（スイス国立銀行）を議長とする統計アドホックグループに対し、IBS の改善に関するオプションの検討を諮問した。同グループは、概念的・実務的観点から様々な提案を考慮するとともに、報告負担に関する意見聴取を行い、データの分析的な価値と報告負担軽減の両立を模索してきた。

その結果、同グループは、2 段階アプローチを採用した。第一段階では、報告金融機関から追加的なデータ提供を求めない範囲で IBS を拡張し、グローバルな金融安定に必要なモニタリング能力を向上させることに注力する（もともと、第一段階であっても、BIS と各国中央銀行では、データ作成システムの大幅な変更が必要となる）。この拡張により、各国銀行セクターのグローバル連結バランスシートに関して、より包括的な実情把握と仕向け国情報のより詳細な分析が可能になる。CGFS は、第一段階の拡張案を、2011 年 4 月に承認した。第一段階の拡張は、2012 年第 2 四半期以降のデータから開始されることが予定されている。

第二段階では、IBS データのカバレッジ拡張を狙いとする。主な目的は、（1）特定の国・セクターに対する与信エクスポージャーの理解、（2）個別国の金融・非金融セクターに対する（クロスボーダーと現地向けの両方の）銀行与信のト

レンドのモニタリング、(3) 主要な銀行システムの資産・負債に内在する、通貨ミスマッチ（及びその程度はやや落ちるものの、マチュリティミスマッチ）を含むファンディングリスク把握、の改善である。加えて、報告中央銀行は、既存データをより完全なものに近付けるとともに、データのアクセシビリティの改善についても努力を行うことを決定した。CGFS は、第二段階の拡張案を、2012 年 1 月に承認した。第二段階の拡張は、2013 年第 4 四半期以降のデータから開始されることが予定されている。

この 2 段階に亘る拡張は、抜本的なもので、拡張された IBS が息の長い統計となるように、設計されている。この拡張では、金融機関の報告負担を最小にするべく、金融安定理事会（FSB）事務局、及び国際通貨基金（IMF）スタッフによる、既存統計で捕捉されないデータ（いわゆる「データ（情報）・ギャップ」）を埋めるための取組みなど、その他の国際的なデータ・イニシアティブとも連携が図られている。そのような取組みには、グローバルにシステム上重要な銀行に関するデータの収集も含まれる（FSB-IMF（2009, 2010, 2011）を参照）。

本レポートは、統計アドホックグループにおける検討に基づき、IBS の拡張について記したものである。第 2 節は、現在利用可能な IBS の簡潔かつハイレベルな紹介と、その主な利用法を説明する。第 3 節では、第一、二段階に亘る IBS の拡張の主な特徴と、新しいデータによって可能となる分析的な価値を説明する。第 4 節では、IBS の拡張に関する今後の課題をもって結語とする。